

鬼石中だより

News from Onishi Junior High School

自立・貢献

藤岡市立鬼石中学校
令和6年度学校だより 第3号
令和6年6月17日
文責：校長 五十嵐

* 藤岡多野中体連夏季大会 6/8~9 「鬼石中の勝利の方程式」*

3年生にとって最後の大会となる、夏季大会が、6月8日、9日に各会場でスタートしました。今年度から春季大会がなくなり、夏季大会が6月から行われることになりました。本校からは陸上、ソフトテニス、野球、新体操、水泳の5種目に出場します（水泳は7月に行われますので、県大会の様子と合わせて、7月のたよりで紹介します）。

大会前日の壮行会で、校長から「鬼石中の勝利の方程式【心×(技+体+智)=結果】」を紹介し、「心」を合わせてチームワークや絆を強くし、生み出したパワーで精一杯戦ってきてほしいとエールを送りました。大会当日はどのチームよりも声を出し、全力でプレーする鬼石中生の姿が各会場で見られました。



(陸上の種目別で上位入賞した さん(3年) さん(3年) さん(2年) さん(2年) さん(2年)は県大会に出場します。)



* 人権集中学習 6/3~14 「鬼石中しぐさのすすめ」*

6月3日から14日までの2週間、前期人権集中学習を実施し、人権について考える様々な活動に取り組みました。集中学習のスタートとして、初日に校長の人権講話を行いました。講話の中で、相手を思いやる言葉や行動を考えるために「江戸しぐさ」を例にして、鬼石中でも「鬼中しぐさ」を意識し、実行していこうと提案しました。具体的には、みんなが気持ちよく過ごすことができるように、鬼石中生全員が1日1つずつ「鬼中しぐさ」を意識し実行しようと呼びかけました。

言葉・行動・考え方の違いを乗り越え、相手の立場になって考えることが人権意識向上の第一歩です。仲のよい人、気の合う人ばかりではないので、相手の立場で考えることは簡単なことではありません。だからこそ、江戸しぐさの精神を思い出し、相手を大切にする具体的な行動を行うことで、学校や学級が、どの生徒にとっても気持ちよく過ごせる場になっていくと考えます。

期間中、生徒たちは、道徳や特別活動などの時間を利用してじっくりと「人権」について考えたり、「ハッピーはひとつふるツリー運動」で友達の良さを紹介し合ったりしながら、相手を思いやる行動や言葉の大切さについて学びました。



* 校内少年の主張大会 6/3 *

1年生2名、2年生3名、3年生2名の7名が、学年の代表者として校内大会に出場しました。

さん(年)

さん(年)

さん(年)



さん(年)

さん(年)

さん(年)



さん(年)

<7人の少年の主張を聞いて…>

今回の7名の主張には、自分を取り巻く日常の生活や学校生活の中で、人とのつながりを大切にしたいという発表が多くありました。他者や他者との関わりから多くのことを学び、自分の成長につなげる、大人でもなかなかできないことを実践している中学生が本校にいることを、校長として誇らしく思います。

また、今回の多くの主張から、中学生らしい新鮮な感覚で、広く、深く周囲を見つめ、自分の考え方や行動を見直したり、周りの人を思いやったり、自分の将来やこれからの社会を展望したりして、前向きに自分の生き方を切り拓いていこうとする強い姿勢や決意を感じました。また、それらの考えが自己の成長にとどまらず、よりよい社会や集団を作っていくための魅力的なアイデアとして示されていることに、感心しました。このような若者たちなら、私たちの未来を安心して任せられると思いました。本当に素晴らしい少年の主張でした。



審査の結果、さん(年)とさん(年)が最優秀賞を受賞しました。2人は、鬼石中学校の代表として、6月29日(土)に市民ホールで行われる藤岡市少年の主張大会に出場します。

さん 発表テーマ「好き」(内容:自分の好きなことを胸を張って伝えることの大切さについて)

さん 発表テーマ「みんな魔法使い」(内容:人を明るく前向きにする言葉の力について)